

# 心の ともしび

No.762 2021年10月

「いつくしみ」

暗いと不平を言うよりも  
すすんであかりをつけましょう



日常生活の中で、「いつくしみ」という言葉をあまり使わないような気がします。祈りとか聖歌の中ではよく出合い、使う言葉です。

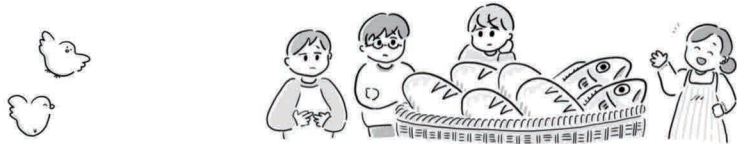
人生の中で体験的にこの言葉と繋がる出来事があります。まだ十代の頃です。私は三兄弟の長男でした。七十年以上前、いわゆる戦後の食べ物無い、子どもにとってひもじい時代でした。兄弟が顔を揃える夕食時に、おかずの大きさなどでよく兄弟喧嘩が始まりました。「お兄ちゃんの方が大きい分けて」「うるさい」等、果ては取っ組み合いの騒動にもなりました。

そんな時、台所から「食べ物の事で喧嘩するなら、お母さんの分を食べなさい」という声がしました。さすがに母親の分まで競って飛びつきはしませんでした。くしゅんと大人しくなり黙って食事を終わったものです。食卓の上には母親の食べる分だけが残っていません。

「お母さん、これどうするの？」

## 「お母さんの分を食べなさい」

はやし 林 ひさし 尚志 神父



と恨み<sup>うらみ</sup>つたらしく聞くと、「台所に下げておいて」と言われます。冷蔵庫などの無い頃は、布巾<sup>ふきん</sup>がかぶされて戸棚に入れます。

寝る前や夜起きた時など、足音を忍ばせて、そっと台所に行ってみると、手付かずのままです。お腹がぐつと鳴っても諦めます。それは翌日のおかずの中などに混じり分けられていました。

母親のこの断食には、兄弟喧嘩も鳴りを潜<sup>ひそ</sup>めたことをよく覚えています。自分は食べないで分けて平和を創る。この様な生き様の中に、母親のいつくしみを感じて、いつくしみという言葉を理解しています。

格差と排除の顕著な現代世界の中にコロナの感染症がパンデミックとなりました。人類の中に「分け合う」といういつくしみが豊かに与えられて、新しい平和が到来することをひたすら待ち望みます。



心のともしびホームページ (<https://www.tomoshibi.or.jp>)

【ラジオ番組「心のともしび」】 月曜日から土曜日までの毎朝、全国ネットで放送中！

各方面で活躍中の執筆者約30名が、その月のテーマに沿って書き下ろしたお話をナレーターの朗読でお届けする番組です。放送されたお話の中から毎月6篇を選んで機関紙に掲載しています。ぜひ、他の方のお話もお聴きください。パソコンやスマートフォンでラジオが聴けるアプリ「ラジコ」のタイムフリーなら過去1週間以内に放送された番組が無料でお聴きいただけます。 ※パソコンの方は「[radiko.or.jp](http://radiko.or.jp)」にアクセスしてください。

スマートフォンの方はアプリをダウンロードしてください。 ➡



放送時間やラジコなどのお問い合わせは、  
心のともしび運動YBU本部 電話 075-211-9341 または、ホームページをご覧ください。